

アフリカンキッズクラブ (AKC) リレーエッセイ_第1回

連載を始めるにあたって

AJF がアフリカンキッズクラブ (AKC) を始めたのは2006年、今年で10周年を迎えました。AKC は「アフリカ出身者のいるファミリーのキッズが集まって、彼らのルーツであるアフリカを感じるイベントをしたい」というお母さんたちの提案で始まりました。これまで、サマーキャンプ、アフリカ料理教室、アフリカ音楽やダンス・ファッション・遊びなどの文化体験、動物園でのアフリカの動物見学、ナイジェリア人連合との「ナイジェリア子どもの日」イベントなどを行ってきました。

今年3月には、中高生になったキッズたちが集まり、ナイジェリア大使館訪問とアフリカ料理店での懇親会を開

催。今回寄稿してくれた田村くんはそのときが初参加でした。今年7月のサマーキャンプでは、中高生や大学生がリーダーシップを発揮し、総勢50人が参加して思いっきり楽しみました。チャリティフットサル大会やグローバルフェスタ JAPAN にも参加し、活発に活動しています。

キッズたちが体験を共にし、おしゃべりするなかで、学校の友だちとは話せないことを話したり、ヘアスタイルを真似しあったり、アフリカにルーツを持つことをポジティブに考えられるようになっていたりしています。今後は、全国のアフリカンキッズとつながっていきたくと思っています。

このリレーエッセイでは、AKC に参加するキッズたちに自由に書いてもらいます。
(津山 直子)

マイスタイル・マイライフ My style, my life

田村 ブライトマンフレッド 照

TAMURA Bright Manfred Teru

僕の名前は田村 ブライトマンフレッド 照です。父はガーナ人、母は日本人、中学2年生と小学1年生の妹が2人います。年は16歳で東京都立産業技術高等専門学校1年生です。

アフリカキッズクラブ (AKC) に初めて参加したのは中学3年生のときで、参加したきっかけは母に誘われたからです。正直、勝手に申し込まれてあまり行きたくなかったのですが、待ち合わせの駅に行ってみると、僕が一番乗りで誰もいなくて、アフリカンタイム (アフリカの人には時間にルーズな人が多い) であるところに親近感が湧きました。

みんなが集まってみると、皆個性的なファッションでアフリカンスタイル (三つ編みや肌の色が目立つように白いズボンを履いたり) を積極的に出して目立つことを恐れていませんでした。僕は目立つのが嫌だったので長ズボンにパーカーで行って、肌をあまり露出しないようにしていました。

参加して、正直自分が情けなく思えました。というのも、AKC に参加するまでハーフであることは、言葉

で表すのは難しいのですが、生活する上で「重り」でしかなかったです。例えば友達と出かけたりするとき、ジロジロ見られるのが嫌で下向きに歩いたり、歴史の授業で black people (「黒人」と書いたり、話したり、言われたりするの嫌なので、black people と書きます) が奴隷としてこき使われたりする单元、例えば三角貿易、アメリカ南部の歴史などでは寝てるフリをして授業に参加してない感を出したり、ハーフであることを隠すためあまり日焼けしないようにして、沖縄の人感を出したりしていました。

今は AKC の活動があるときは必ず参加しています。行く度に新しいものに触れられるし、新しい人や新しいスタイルに出会うことができるからです。今年5月に開催された「ナイジェリアの子どもの日」のイベントのときは、アフリカ旅行に行ったような気がしたほどの会場の熱気が印象的でした。

それと電車の中や街中で black people に会えばお辞儀をしたり、ちょっと話したりしています。ファッションもラスタカラーを必ず服や帽子、靴下などに取り入

たむら ぶらいとまんふれっど てる 東京都立産業技術高等専門学校1年生。父はガーナ出身。アフリカンキッズクラブに積極的に参加している。趣味はスケートボード、自転車。

れているし、ハーフであることはハーフでない人には決して真似できない個性だと思って、人とかぶったり歳相応の格好（例えばピンクとか青とかのワイシャツに中途半端な長さのズボンみたいな格好）なんかしないで、自分なりのスタイルを出しています。

今、僕は高校生としては変わった生活をしていると思います。先に書いた都立産業技術高専は5年制で、工学系の科目を学ぶ学校で、私服で登校しています。具体的な授業はロボットのプログラム、本格的な電気回路制作などです。この学校に入った理由はいろいろありますが、住んでいる千葉ではなく都内の学校に行きたかったこと、知り合いがいない学校に行きたかったということもあると思います。小・中学生の頃はクラスが変わるたびに友達ができるか、嫌われないかと心配になって、自分からあまり話しかけなかったけれど、必ず友達ができました。しかし積極的に話しかけられないのが嫌で、知らない人に囲まれる環境の方が積極性が上がるような気がしたことも、この学校を選んだ理由の一つかもしれません。

僕の一日は、まず着ていく服選びから始まり、満員電車で1時間乗り、精神を削り学校に到着します。午前の授業は11時55分まで、昼休みにはパソコンをいじりながらお昼ご飯を食べます。昼休みは外に食べに行ったりしてもいい自由な学校です。午後は12時45分に始まって14時に授業が終わり、そのあとはパンの食べ比べをしたり、図書館に行って本を読んだり、家に帰ってスケートボードに行ったりしています。

この学校にはハーフの子がいっぱいいて、自分を含めて同じクラスに3人、学年では5~6人はいると思います。進学する学校が決まっていなくて、理科と数学が得意な中学生は、ぜひ、都立産業技術高専へ。都外

に住んでいても受けられます。Wi-fiも飛んでます。

僕の趣味は、スケートボードとピストバイクに乗ることです。スケートボードを始めたのは、たまたま行った洋服屋で見た、スケートボードのビデオがカッコよくて始めたのと、周りにスケートボードをやっている人が少なかったのがきっかけです。今は「#110enskatebord」というチームを組んで休みの日とかに滑っています。良かったら、インスタグラムで「#110skate」で検索してみてください。

ピストバイクは競輪用の自転車のことを指し、英語だとfixed-gear bikeと書きます。特徴としては、車輪とペダルが連動しているの、ペダルを後ろに踏めば、後ろ向きに走ることが可能です。ピストバイクに乗っている理由は、好きなプロスケーターが移動するときに使っていることと、カリフォルニアをホームにしているスケーターたちが乗っているからです。

AKCのメンバーで、歳が上の人（大学生や高校3年生の人など）たちと話すことがあったのですが、皆さん英語を学んでかなり勉強しているようで、口をそろえて「海外に行きたい」と話していました。僕はそのときは日本にいた方がいいような気がしたのですが、最近アメリカおよび外国全般に憧れ始め、できればカリフォルニア州立工科大学に行って英語と工学のどちらも学ぶことができればいいなと思っています。ちなみに高専は5年制なので、大学は編入学の形になり、日本の国立大学も3教科ぐらいのテストを受ければ入学できます。

最後に、僕にとってAKCはそれまで周りにいなかった人や似た境遇の人々と出会い、数々の変化を与えてくれている場所です。アフリカにルーツを持つ多くの子どもたちにAKCに参加してほしいです。



左が筆者、妹のイシアさん、千代子さんと一緒に
撮影：2016年



グローバルフェスタ JAPAN の会場でアフリカンキッズクラブの仲間と一緒に 2016年10月 東京・お台場